



〔座談会〕 空爆に対する文化財防衛

〔出席者〕

- 井上 司朗 情報局第四部文芸課長
- 小幡 治和 内務省防空局指導課長
- 丸尾 彰三郎 文部省国宝鑑査官
- 藤田 嗣治 画家
- 岡鹿之助 画家
- 〔司会〕 高村 豊周 美術報国会理事

座談会の要旨

- (一) 戦争による美術災害の例―前大戦の経験等
- (二) 戦争と各国の文化財保護政策
- (三) 美術品の分散保存、待避管理等による保護工作
- (四) 美術館、寺院等の文化的建造物の防空設備
- (五) 文化財破壊による思想的謀略戦術の心理的效果とその対策

重要美術品・建造物の保護

軍事施設であると否とを問はず、所嫌はず盲爆する敵の戦術の目的は国民生活を混乱に陥れると共に民族が愛惜と尊敬の対象である固有の文化財―各種の美術品、造営物―を破砕することによつて、わが大和民族の戦意を喪失せしむる謀略を巧みに織り込んでゐる。

国宝と民族の士氣

文化財破壊は「戦意喪失」を狙ふ  
日本精神は『物』を超越

われ／＼は防衛を講じてなほ且つわれらの文化財が灰燼に帰することあつても、決して士氣の沮喪を来すものではない。即ち文化のための文化防衛を叫ぶのではなく、民族本来の戦力を貫くことによつてその防衛に万全を期さうとするものである。美術報国会では同会結成後最初の事業として『空爆に対する文化財防衛』座談会を開き、その成果に基いて座談会を単なる座談会に終らしめることなく、文化財防衛の国民運動に着手することになつた。ここにその座談会速記の概要を掲載して特輯する。

**高村** 最近私どもに最も衝撃を与へたものは、ドイツやイタリアに対する

英米側の盲爆が貴重な文化財に及んでゐるといふことであります。これは恐らく人間の歴史が始まつて以来稀に見る悪質な破壊行為であつて、ベルリン、ローマを爆撃した爆弾は直ちに東京をも見舞ふものだといふことは当然覚悟しなければならぬ。ミラノのスカラ座をがらん洞にしてしまつたとか、或はポンペーの廢墟を更にまた廢墟と化し去つたといふことから考へると、これは恐らくはフランスでいへばルーブル博物館、もつと身近なところでは北京の紫禁城なり、奈良の正倉院などが同じやうな運命に曝されないとはい決して誰も保証し得ないと思ひます。

さういふ事態に対してわれわれその職域にあるものは、前大戦のいろ／＼な経験もありませうし、更に今次の大戦であちらで目撃された方もいらつしやいますし、またその専門の局に當つておられる方々も、それぞれの専門的見地からいろ／＼なご方策を伺ひたいと思ひます。

**井上** 今度の米英空軍のドイツ、イタリアの諸都市における文化財の破壊は、必ずしも盲爆とはいひきれないと思ふのです。むしろ計画的に文化財を爆撃したといふ形跡が非常に顕著であります。そこに私どもは二つの大きな敵側の意図を看取出来ませう。

一つは、アメリカといふ国は非常に歴史の新しい国で、世界に誇るべき文化的伝統といふものは少しもないから、結局數量的、形式的に世界一を狙つてゐる。今度の戦争においても米英の考へたことはこの機会に、非人間的な一種の嫉妬心、非常にケチ臭い根性から、ドイツ、イタリアの中世

以来遺つてゐる寺院とかその他の芸術的遺蹟とかいつたものを、計画的に空爆してゐるといふことが看取されます。

もう一つは、そのやうな民族的な嫉妬以外に、かれ等は伝統の長い美術文化財を破壊することによつて、大きな思想的な効果を狙つてゐるといふことであります。文化財といふものは、その民族の現在並に過去において到達した精神の最も高い境地の表現であり、いはばその民族の精神的結束の中核となるものであるから、由緒深い文化財なり、伝統ある建築物を破壊するといふことは、一挙に相手国の国民の自信を喪失させるといふ大きな効果があります。現にイタリアはローマやミラノあたりの中世時代から国民が深い信仰を繋いで来た建造物が盛んに破壊されたことに非常に精神的ショックを受けたために、国民が著しく敗戦的になつて、ああした結果になつたと思ふのであります。日本においては文化財を保護し、防衛することによつて、現在の戦ふ国民の士気を昂揚するに足るからこそ、保存の道を講ずるのであります。敵の爆撃で文化財を破壊されたことによつて、日本国民の戦意が沮喪されるといふ考へ方は一応考へられますが、さういつた考へ方の根本を深く考へて見ますと、やはり米英の物質主義的な考へ方ですね。文化財も一つの物ですから物を毀せば国民が戦意を喪失すると考へる。米英は日本人をよく理解してをらない憐れむべき滑稽な認識不足がここにあると思ひます。日本民族は物を大事にするが、究極すれば物に拘泥しない、融通無碍な深い心境に徹し得る民族であります。日本人は伝統の深い文化財に大いに愛惜を感じ尊敬しますが、これを破壊されたから

といつて、西洋の連中が寺院を破壊された時に感ずる失望落胆は日本にはないと思ひます。

**藤田** 私どもは、この戦争が苛烈を極める時に、国民の士気を昂揚する外に美術家のとるべき道はないと思ひます。それで戦争画に没頭してかうした画が後世に残つて、日本の精神、士気を永久に昂揚させて行くものだらうと思つて、私たちは今将来の国宝になるべきものをこしらへようと思つてゐます。国宝をどういふやうに保護するかといふよりも、国宝をこしらへようとしてゐる。ちよつとお話と立場が違ふのです。

陸軍省では昨年度の優秀な記録画十点ばかりを空襲に備へて保護されたさうですが、大東亜戦争の実相を後世に伝へなければならぬといふ目的で、特に配慮されたといふことを聞いて有難く思つてゐます。

前欧州大戦の一九一四年九月に、もう敵の飛行機が来てルーブルの屋根をやられました。美術品はすでに運ばれて、ルーブルは土囊で囲んであつて大したこともなかつたのです。運ばれた美術品はピレネーあたりの、私の知つてゐる家等に分散してかくされてしまひました。続いてアミヤン、ルーアンあたりの有名な寺院は大分破壊された。最も損害を蒙つたのはランスの寺で、これは非常にやられました。特に有名なものは第一次大戦の時は失つてゐません。

さういふやうな前例がありますから、今度の欧州大戦等になるとすぐ更に、第一次欧州戦争の時よりも防備を完全にしまして、土囊をもつと堅固に高く積み上げまして、凱旋門とかオペラ座の前の彫刻とか有名なものを

はじめ、寺院その他の物をみな保護しました。ルーブル博物館で一番大きなギリシャの勝利の女神の彫刻「サモトラケのニケ」も運びました。ダビッドとかペロネーゼの一番大きな絵もみな箱が出来ていたさうで、大きなトラックで運ぶのです。向こうのトラックには廿四呎位の長さの絵が楽々運べるものがあります。

ルーブルの美術品は今度も殆どみな運び去つて、一つも残つたものはありませんでしたが、フランスが降伏するとまた小さなものが持ち込まれて、ルーブルを開いて展示を開催して、住民に美術の鑑賞を許してゐました。大きな彫刻とか建築物はみな土囊を積み重ねてありますが、下の地面についてゐる土囊の幅は二間位で、高さは十間、あるいは十五間位積み重ねてありました。

**岡** 私もパリ以外のことは詳しく存じませんが、やはり今度の戦争でドイツに戦線を布告するや否や、あるいはその前あたりからルーブル博物館をはじめ、いろ／＼の博物館がその中の貴重品を分散することに着手したのは、何事も非常にスローモーションであるのに、その点は大変に早く行はれてむしろ不思議な感じを抱かせたのであります。壁画などの場合は、壁画の前に土囊を築いた。その土囊は幅は六尺位もあつた。お寺のステンドグラス、色ガラスなどは戦争の起こる前からいつでも取りはずせるやうな方法を講じてゐて、まるで戦争を待つてゐたといふ感じですが。これもたちまち地方へ分散しました。かういふやうにフランスの国民は、日本と同じやうに古い伝統的な立派な文化財を持つてゐて、これに対する愛着が非常、

に強い。それを破壊された場合には人心の動きといふものが大きく、それを考慮して政府が特別にさういふ措置をとつたものだらうと思ひます。

パリではキリストが祀つてある寺院によく爆弾が落ちますが、それを破壊すれば完全に人心は乱れるのです。キリストを失ひ建築を崩されたその寺院の周囲の市民が本当に收拾のつかないやうな状態になるのを、私は目撃しました。

消火栓を要所に

### 法隆寺の設備

板と土嚢で造る防壁

**高村** 現在の進んだ科学的の防衛設備といふことについて、その方の一番の専門家でいらつしやる小幡さんにお伺ひしたいのですが。

**小幡** いままでかういふ美術関係等については個人的には相当意見もありましたが、一つの関係官庁が取上げるとか、また団体が取上げるといふやうなことは実はありませんでした。今までさういふことがなかつたことは不思議だと思ふ位です。日本においては敵の上陸なんかはまあ全然不可能としか考へられませんから、空襲に対する防衛といふことに極限して考へたいと思ひます。さうなつて来ますと、可動のものは分散配置すること。唯、何処に配置するかといふことで、一時は若草山に横穴を掘つてそこへしまつてはといふ意見もありましたし、また栃木県の大谷石の出るあ

たりの、岩窟の沢山あるところはどうかといふので、調べに行かれたこともあつたやうですが、結局ああいふ地中といふことになる、湿気の関係でどうしても駄目だ、結局地上でなければならぬといふ結論になつた。しかし地上といふことになるのと相当のセメントなり砂を持つて来て、対爆弾設備をやらねばならぬ。ところが、現在のところさういふものは予算の上にも現はれてもみませんし、結局あるものを使用するといふことになりま

す。さういふ点からいふと非常に不徹底ですが、これはやはり関係方面で、ほんとうにこれだけは防護しなければならぬというものについては、重点順位をつけて考へなければならぬ問題です。

それから、施設建築物に対するもの、国宝等分散して置いたものを護ることについては、直撃弾を受けぬ場所に置くことが第一で、もしそこらに誤つて爆弾が落ちるやうな際には、爆風や破片による被害を防ぐ、そのためには工場でも相当やられてゐるやうに、板を二重にしてその中に土や砂を埋める、さうして一つの防護壁を造り、その壁の高さが大事な物の上

まで出るやうにして置く。さうすると非常に違ひます。

それから法隆寺等の防護ですが、ああいふ施設物に対する防護も、地方庁としては随分考へてゐる特別の水道が造られてありまして、法隆寺の各建物の要所／＼に消火栓が出来てゐて、その消火栓からポンプに連結すれば、随分高い塔のところまで届くやうな水圧が出るから、法隆寺の何処に火事があつても消せるといふ施設が出来てゐます。又あそこの法隆寺村が法隆寺を中心として消防組織を考へてゐます。

**丸尾** 一番心配なのは何といつても京都でせう。東京には数が少ないし、奈良は田舎で分散してゐますが、京都は密集した人家の中にあちこちにお寺がある。京都は全体が博物館のやうなものですから、これは木造建築だから非常に危ない。京都府の方では相当力をいれられてゐるやうですが、何処にどういふ蔵があるかといふことを普段調べておいて、いざといふ時にはそれを徴発してそこへ非難させるといふ方法を考へてゐるやうなことを、京都府でもいつてゐました。

**小幡** いざといふ場合の防衛方法を訓練しておくことが必要です。工場、会社、銀行などで防空訓練をやつてゐますが、国宝のある寺で坊さんが鉢巻をしてやるといふのは余り聞かない。どうしても保存しなければならぬといふ物は、国家としてその方途を講じねばならないが、国家的施策が出るといふことに頼るのではなく、自力で護つて行く方策を考へて行く運動を起して行くことも大切です。

### 護る意志が第一 設備だけでは救えぬ

**高村** わが国で現在、国宝その他重要美術品をどういふ風に保管してゐるか、博物館だとか奈良のお寺などの建築物に対してどういふ風な方策が講じられてゐるか、機密に亘らない程度で、丸尾さんお話し下さい。

**丸尾** 出来るだけの方法を、当局としては全部やつてゐます。ただ実際に

おいては具体的にまだ／＼実行に万全の策といふことへな／＼実現してゐないのです。国宝を持つてゐる美術館は、東京、奈良、大阪、京都ですが、それ以外に鎌倉に国宝があります。

**高村** 大きい建造物、例へば法隆寺の金堂などを防御する具体的な策はなですか。

**丸尾** 日本の建物というものは木造ですから火事が一番怖い。爆風も怖い。さういふ意味で消火設備が第一です。資材的にコンクリートや何かが足りなかつたりするので、まだなか／＼そこまでは手が廻り兼ねるわけです。宝物の損傷を防いで行くにはやはり精神問題が非常に大きな役目を持ちます。

大分前のことですが、高野山で火事があつて金堂を焼いてしまつた。本の尊の薬師さんは厨子に入つてゐるのですが、非常の場合には担ぎ出さうといふために、以前にレールを敷いて引き出せるやうにして置いたのですが、それでもとう／＼焼いてしまつた。つまりレールのところへ飛び込む人がいなかった。ところが比叡山の横川の根本中堂の場合はそうではなかつた。あの御本尊は薬師如来で国宝ですが、この間雷が落ちて根本中堂が焼けた。その時道心が一人直ぐさま火の中に飛び込んで行つて御本尊を助けました。これはどうしても護らなければならぬといふ気持が、ほんとうに滲み渡つて一般化してをれば、たとひコンクリートの蔵はなくとも結構護れるし、またさうでなければ幾ら立派な蔵があつても非常に危ないといふことです。上野の博物館は御物の関係がありますから、やはり現在の場所で護る、

護る設備は相当出来てをります。対空設備はあの建物は出来てをりませんが、差し当たりいろ／＼の工面をして相当の数を防御する方法は立つてゐる。また一種の分散方法も講じて実行してゐます。奈良の博物館にしても、奈良は大体安全地帯とはいひながら、さつきのお話のやうな計画的爆撃があるでせうし、正倉院なども一旦緩急あれば、何を何処へ出すかといふ、二段三段の建前はもう既に出来てをります。

上野の博物館の国宝はすつかりしまつてあつて、陳列してをりません。何といつても一番危ないのは、六大都市で、東京の五、六ヶ所のお寺には国宝がある。そうするとまづ火事が怖い。坊さん達ばかりの手の少ないところへ置くよりは、もっと安全なところへといふことで、東京都内のものは博物館の蔵の中にしまふといふことにする。また大阪市内にある寺院の仏像の如きは、大阪の美術館の大丈夫なところへしまふ。——もう一つ分散の問題ですが、これはなか／＼難しい。神社仏閣のものが多けれども、大体神社仏閣といふものは山の中に方々に亘つてあるから、これは既に分散の形になつてゐる。そこで博物館にあるのを分散するかしないかといふ問題ですが、田舎だからといつて油断出来ない。なか／＼難しいですね。結局はその保管に当る人が、もし警戒警報になつたらかうする、空襲警報になつたらどうするといふ手順を普段からしつかり建てて置くことです。

(完)